

Z会進学教室 葛西通信 3月号

葛西教室に通う本科生の皆さんは、以下の四点を心がけるようにしましょう。

- 1 進学塾に通う中学生としての自覚を持つこと。
- 2 信頼の土台となるあいさつをきちんとすること。
- 3 書くことを大切にし、ノートをしっかりとること。
- 4 自習室を上手に利用し、自分で考えてもわからないことは遠慮なく先生に質問すること。

葛西教室より

葛西教室のスタッフの声をお伝えします。

「新生活、花を愛でよう」

教務スタッフ 篠塚雅之

1月20日(日)より葛西教室に配属となりました、篠塚と申します。葛西への配属前は御茶ノ水教室で主に高校2年生の学習相談や受講相談などを承っております。葛西教室でも、中学生から高校受験の相談を、高校生から大学の進路相談や学習相談などさせていただき、皆様に貢献できるようにサポートに努めてまいりますので、宜しく願いいたします。教科は国語を担当しており、葛西教室では2018年の夏に中2と中3の単科ゼミと6Vの授業を、2019年の中学準備講座を担当させていただきました。



Z会に入社してから、まだ生徒から言われたことがありませんが、「英語は必要だから勉強する理由がわかるけれど、古文はなんで勉強するのか」ということを過去に言われたことがあり、それを中学準備講座の授業準備をしている時にふと思い出しました。授業を担当している私自身、古文からたくさんのことを学んでいます。まず、響きの美しい言葉を巧みにつかひ分けていたということです。昔は当然、映像や写真などの画像がありませんでしたから、人々は様々なものや人を想像して生きていました。想像する力は現代人には到底かなわないものでしょう。同時に現代人よりも感性が強く、花の美しさを見て涙を流す方もいたのだらうなと思います。それほどまでの豊かな感性と想像力を兼ね備えた人々が紡ぐ言葉は、選ぶ言葉のセンスも音も美しいのです。古文にふれることで、自分は言葉を巧みにつかえていないと思い知らされます。部屋を見て、ピカピカとした床も整理整頓されている書棚も整った顔立ちの人も、歌声も踊りも咲き誇る花もみんな「きれい」とまとめてしまっているの・・・。当時は「うるはし、にほふ、きよらなり」などの言葉があり、「うるはし=きちんと整ったきれいな様子」で、「にほふ=色つやのある美しさ、容姿などの華やかさ」という意味でつかわれ、さらに「きよらなり=濁りのない、透き通った美しさ」という意味で、場面や対象によって上手につかわれていたのです。場面に適した言葉を巧みにつかえることは、とても魅力的な人間ですよ。他にも古文で学べることはたくさんあると思っておりますが、生徒の皆様が古文にふれる中で、ご自身で見出していただけた方が学習をより楽しめますので、皆様も古文から学べることを見つけることが

できるようサポートしたいと思っております。

さて、古文の学習をすすめていくと日本の文化も学ぶことができます。「花」という解釈をする時、奈良時代までは梅を指し、平安時代以降は桜を指すということを学びます。当時の貴族は春の美しい花を見て感動し、和歌を詠んでいましたが、時代によってなぜ花の対象が代わっているのでしょうか。桜の咲き誇る前に、日本の花について勉強してみると、桜の見方が変わるかと思います。

奈良時代で日本が貿易をしていた国は唐で、日本は唐の文化などを取り入れていたことは歴史で学習しましたが、梅も唐から取り入れたものでした。貴族たちは梅の花をとて気に入り、庭に植えて春になると梅の花を見てうっとりとしていたのです（私は花だけでなく、梅干しも美味しくてうっとりします。おにぎりの具は迷わず梅を選びます）。

美しい梅を見ながら和歌を詠むというのが花見のはじまりともいわれています。日本の三大和歌集の1つである万葉集は奈良時代、万葉集には梅を詠んだ和歌が110首（桜は43首）ですから、梅が人気だった時代ということがわかります。

しかし、奈良時代より昔から、桜は神の宿る木であるとされ、胸を打たれる美しい花というとらえかただけではなかったようです。「稲（サ）」という神様、「座（クラ）」は神の座る場所を指す、それが桜の名前の由来という説もあります。桜の花が咲くと、神様が降りてきたと人々は祭っていたようです。また、農耕社会であった日本人にとって、桜の花が咲くと農耕を開始する時期だとしていたといわれています。

平安時代になると、桜が好きな天皇のお話や、国風文化が盛んになり、中国から伝わった梅から桜へ意識を向けたというお話など、様々なお話がありますが、梅から徐々に桜の花を貴族たちは愛でるようになりました。三大和歌集の1つである古今和歌集は平安時代の和歌を集めたものですが、桜の和歌は70もあることに対して、梅は18首ですから、平安時代以降は桜の時代となっていたことがわかりますね。



桜を愛でるという意識は、嵯峨天皇が影響を与えたといわれています。清水寺の敷地内にある、恋愛成就で有名な地主神社は修学旅行で行った方もかなりいるのではないのでしょうか。私はまだ行ったことがありません……。この地主神社に嵯峨天皇が行幸（天皇の外出）をした時、2度3度、乗っていた牛車（当時は馬車ではなかったのです）を戻させて桜を見ていたというお話があります。その桜は今も「御車返しの桜」といわれています。それから、嵯峨天皇は地主神社の桜をとて好み、毎年、地主神社に桜を献上させていたというお話があります。ここから貴族で広まって、桜を鑑賞する習慣となっていきました。土佐日記の作者で有名な紀貫之のいとこである紀友則は、次のような和歌を残しています。

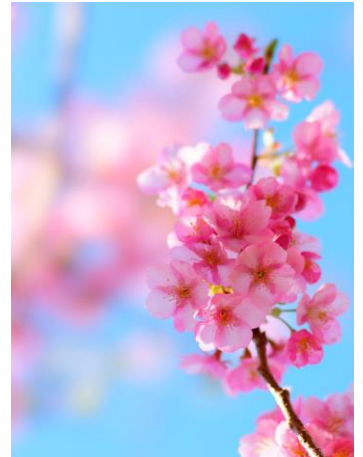
「ひさかたの 光のどけき 春の日に しづ心なく 花の散るらむ」

春のやわらかな日差しでこんなにものどかな日なのに、桜の花はあわただしく散っていく。春の穏やかな日にまったりと心を落ち着けて桜を鑑賞しているが、それに反して桜はあっという間に散ってしまうことへの哀愁を感じさせる和歌ですね。現代でも、春休みの頃、午後のやわらかい日差しの中で、部活動やお出かけ帰りにふと桜を見上げてみると、「きれいだなあ」という気持ちになれますが、同時に吹雪のように散っ

ていく桜を見ると「こんなにもきれいな桜の景色が一気に終わっちゃう・・・」という寂しさも覚えるかもしれせん。古文を学習していると、1000年経っても変わらない人間の価値観というものに驚かされることがたくさんあります。

鎌倉時代には、貴族だけでなく武士階級の人々も桜を愛で、全国的なものとなっていきます。貴族中心から、次第に一般階級へと広まっていきました。安土桃山時代になると、宴会の花見が本格的に始まったようです。豊臣秀吉も桜を愛していて、京都の醍醐寺のある醍醐山に700本近くの桜を植樹して、1300名近くを招待した宴が行われたそうです。しかも、1日ではなく5日間もおこなわれていたと・・・。桜も人も日数も規模が大きすぎてもはや宴会とってよいレベルなのか・・・。

武士と桜といえば「花は桜木 人は武士」という言葉があります。広辞苑で調べてみると「花では桜が第一であるように人では潔い武士が第一である」という意味だとわかります。武士も潔い生き方をすることが美德とされていたようです。なんとも武士らしく格好良い内容だと思います。しかし、桜の命は短く、あっという間に散ってしまう様は縁起が悪いという考えも武士の階級にはありました。これは、武士個人が潔く散っても、家は絶えてしまうことはよくありませんから、家紋で桜を使っている武士は少なかったそうです。



江戸時代になって、一般庶民も花見を楽しむようになりました。寛永寺に、徳川家光が吉野桜を植えたことがきっかけといわれています。

また、庶民が花見をする場所を作ったのは、徳川吉宗でした。浅草などに桜の植樹をして、庶民が桜を愛でる場所をつくりました。吉宗は、桜の名所を作れば、桜の見物客が増えて、農民の収入が増えることを狙ったそうです。こうして庶民も花見を楽しむようになり、今の「みんなで桜を見ながらおいしいものを食べて楽しく過ごす」というようになっていきました。

ちなみに現代の咲き誇る桜たちの多くはソメイヨシノという種ですが、江戸末期、今の駒込である染井村で、交配してつくられた桜です。他の桜よりも成長がはやいので日本全国に広がることとなりました。

しかし、ソメイヨシノの寿命は短いとされています。ソメイヨシノは、かつての貴族や武士などと同じ花を見ているということではないので寂しい気持ちもありますが、むしろ今見上げているソメイヨシノは現代の私たちにしか見られない桜であるのですから、歴史的な桜でなく、「自分の桜」というものを残していけるのではないのでしょうか。ちなみに私は以前、千葉県成田市に住んでいましたが、中台運動公園という大きな施設の、体育館の隣にあるベンチで桜を見上げ、100年後にはない、自分の世代しか見られない桜なんだなあとしみじみ思い、毎年桜の咲く季節に通っていました。みなさんもぜひそんな桜の景色を見つけてみてください。

いよいよ卒業と入学の季節となり、今は梅の花が盛りですが、現小6と中3の皆様が新たな制服に袖を通す頃には梅から桜へとバトンタッチする時期となります。春の美しい花たちに負けなくらいの笑顔で新生活を迎え、桜を愛でることができればと心より願うばかりです。

月	日	曜	受付時間	授業・テスト・模試など				保護者会・研究会など		
3	1	金	14 ~ 22	休講日						
	2	土	10 ~ 22	休講日				新中1対象「Z会進学教室からの難関高校受験」 11:00~12:00		
	3	日	10 ~ 20	新中2・3 3月度①				11:00~12:00 春期・本科説明会		
	4	月	14 ~ 22							
	5	火	14 ~ 22							
	6	水	14 ~ 22							
	7	木			休室					
	8	金	14 ~ 22							
	9	土	9 ~ 22			中学準備講座 授業報告会 13:00~15:00				
	10	日	9 ~ 20	新中2・3 3月度②	新中1 3月度①					
	11	月	14 ~ 22							
	12	火	14 ~ 22							
	13	水	14 ~ 22							
	14	木			休室					
	15	金	14 ~ 22							
	16	土	12 ~ 22			15:00~16:00 新高1対象 最難関大入試研究会	17:00~18:00 新高2対象 最難関大入試研究会			
	17	日	9 ~ 20	新中2・3 3月度③	新中1 3月度②			10:00~12:00 全学年対象 高校入試研究会<千葉県入門編>		
	18	月	14 ~ 22							
	19	火	14 ~ 22							
	20	水	14 ~ 22							
	21	木			休室					
	22	金	14 ~ 22							
	23	土	9 ~ 22					10:30~12:30 全学年対象 自校作成入試研究会		
	24	日	12 ~ 22	休講日	16:00~16:45 東大進学教室説明会	17:00~19:30 卒業パーティー				
	25	月	14 ~ 22	休講日						
	26	火	12 ~ 22	休講日				高1スタートダッシュ 数学 18:30~20:30		
	27	水	9 ~ 21		3K 英数国理社 講習①	2V 英数国理社 講習①	2K 英数国 講習①	1V 英数国 講習①		
	28	木	9 ~ 21		3K 英数国理社 講習②	2V 英数国理社 講習②	2K 英数国 講習②	1V 英数国 講習②		
	29	金	9 ~ 21		3K 英数国理社 講習③	2V 英数国理社 講習③	2K 英数国 講習③	1V 英数国 講習③		
	30	土	9 ~ 21		3K 英数国理社 講習④	2V 英数国理社 講習④	2K 英数国 講習④	1V 英数国 講習④		
	31	日			休室					
4	1	月	9 ~ 21		3K 英数国理社 講習⑤	2V 英数国理社 講習⑤	2K 英数国 講習⑤	1V 英数国 講習⑤		
	2	火	9 ~ 21		3K 英数国理社 講習⑥	2V 英数国理社 講習⑥	2K 英数国 講習⑥	1V 英数国 講習⑥		
	3	水	9 ~ 21		3K 確認テスト	2V 確認テスト	2K 確認テスト	1V 確認テスト		
	4	木	14 ~ 22	休講日				高1スタートダッシュ 英語 16:00~18:00		
	5	金	14 ~ 22	休講日				高1スタートダッシュ 国語 16:00~18:00		
	6	土	14 ~ 22	休講日						
	7	日	10 ~ 20	4月度①						

Z会の教室
Z会進学教室 葛西教室

〒134-0084 江戸川区東葛西 6-2-3 第三須三ビル 6階 TEL03-5878-0844

受付時間 平日 14:00~22:00 日曜日・講習中 10:00~20:00

『葛西通信』の記事(バックナンバー)はWebからもご覧いただけます。

Z会 葛西 検索